

2016 東京国際映画祭  
審査委員特別賞  
最優秀女優賞

2016 ヴェネツィア国際映画祭  
新人監督賞  
ヨーロッパ・シオマーレ賞

2016 トロント国際映画祭  
正式出品

2017 ヨーテボリ国際映画祭  
最優秀フルディク映画賞  
撮影賞

2017 タイタニック国際映画祭  
最優秀作品賞

2017 リビエラ国際映画祭  
監督賞/観客賞

2016 テッサロニキ国際映画祭  
ヨーロッパ・パリュー賞

2017 ミネアポリス・ヒントボル国際映画祭  
観客賞 ミッドナイトサン 三位

2017 ニューポートビーチ映画祭  
外国映画賞

2017 サンクバーバラ国際映画祭  
最優秀ノルディック映画賞

2017 シアトル国際映画祭  
審査員大賞/最優秀女優賞

2016 ハンブルグ映画祭  
ヤングタレント賞/ノミネート

北欧スウェーデン、知られざる迫害の歴史—  
幻想的で美しい自然の大地ラップランドに、サーミの歌が響く

家族、故郷を  
捨ててでも  
少女が願ったのは  
自由に生きること

SAMI BLOOD

# サーミの血

監督・脚本:アマンダ・シューネル 音楽:クリスチャン・エイドネス・アナスン 出演:レーオ=セシリア・スバルロク、マーア=エリーカ・スバルロク、マイ=ドリス・リンビ  
ユリウス・フレイシャンデル、オレ・サッリ、ハンナ・アルストロム 後援:スウェーデン大使館、ノルウェー王国大使館 配給・宣伝:アップリンク  
(2016年/スウェーデン、ノルウェー、デンマーク/108分/南サーミ語、スウェーデン語/原題:Sameblod/DCP/シネマスコープ)



3月23日(土)札幌プラザ2・5 狸小路5丁目(札幌市中央区南2条西5丁目)

	サーミの血	清水さんトーク	八十五年ぶりの帰還
①	10:30~0:20	0:30~1:00	1:05~1:30
②	2:00~3:50	4:00~4:30	4:35~5:00
③	6:00~7:50		

大人1,000円(当日1,300円)

シニア1,000円(前売・当日共)

学生 500円(前売・当日共)

市内PG(大丸藤井・道新・教文)で発売中。

当日支払いで便利な電話・メール予約を受付中。

主催/札幌映画サークル 後援/札幌市

011-747-7314(留守電対応) 岩本090-7055-0074

e-mail:sapporocinema@yahoo.co.jp

ゲストトーク



コタンの会代表  
清水裕二さん

同時上映 短編ドキュメンタリー



八十五年ぶりの帰還  
アイヌ遺骨 柄白コタンへ

2016年 東京国際映画祭で

審査委員特別賞と最優秀女優賞をW受賞!  
監督自らのルーツに迫った渾身の感動作!

# トナカイと暮らす ラップランドを捨て クリスティーナという名で 生き抜く道を選んだ 少女の物語

2016年の東京国際映画祭で審査委員特別賞と最優秀女優賞をダブル受賞し、世界の映画祭でも絶賛の声が相次ぐ『サーミの血』は、北欧スウェーデンを舞台に描かれる少女の成長物語であり、差別に抗い生き抜く姿に心打たれる感動作。サーミ人とは、北欧のラップランド地方でトナカイを飼い暮らす先住民族。映画の主な舞台となる1930年代、サーミ人は劣等民族として差別を受けた。監督のアマンダ・シェーネルはサーミ人の血を引いており、自身のルーツをテーマにした短編映画を撮った後、長編映画デビュー作となる本作でも同じテーマを扱った。主演のレーネ＝セシリア・スバルロックは、ノルウェーに暮らすサーミ人で、トナカイの飼育に従事している。



「多くのサーミ人が何もかも捨てスウェーデン人になったが、私は彼らが本当の人生を送ることが出来たのだろうかと常々疑問に思っていました。この映画は、故郷を離れた者、留まった者への愛情を少女エレ・マリヤ視点から描いた物語です」

——アマンダ・シェーネル監督

## 忍び込んだ夏祭りであなたに恋した— 私を連れ出して

1930年代、スウェーデン北部に暮らす先住民族、サーミ人は差別的な扱いを受けていた。寄宿学校に通う少女エレ・マリヤは成績も良く進学を望んだが、教師は「あなたの脳は文明に適応できない」と告げる。そんなある日、エレはスウェーデン人のふりをして忍び込んだ夏祭りで都会的な少年ニクラスと出会い恋に落ちる。トナカイを飼いテントで暮らす生活から何とか抜け出したいと思っていたエレは、彼を頼って街に出た——。

私は『サーミの血』という映画を鑑賞しました。そして映像の冒頭より私は硬直しつつ観ていました。なぜなら私が1950年代に体験した事実と同様な場面の映像であったからです。具体的にはコンパス状の測定器具によって頭蓋骨全体を縦横無尽に測定する生体測定・身体測定及び身体表面の観察調査、さらに採血される映像は、私の全身に再びよみがえる映像がありました。〈中略〉さて、そもそも人類研究とは何をするのでしょうか？」

アイヌ遺骨返還請求訴訟での清水裕二さんの意見陳述(2018年4月10日)より。

同時上映

## 八十五年ぶりの帰還 アイヌ遺骨 从白コタンへ

製作 コタンの会 北大開示文書研究会 監督 藤野知明  
(2017年/フルハイビジョン/25分/アイヌ語・日本語)

1931年、北海道大学の研究者が形質人類学の研究目的で浦河町の墓地からアイヌの遺骨を持ち去った。先祖の遺骨は故郷のコタンに取り戻せたか?

マドリード・アジア国際映画祭 2018 ベスト・ドキュメンタリー  
札幌国際短編映画祭2018 北海道セレクション